

平成 30 年度 第 1 回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 30 年 7 月 10 日 (火) 午後 3 時から午後 5 時
- 2 会 場 第二本庁舎 31 階 特別会議室 21
- 3 出席者 増淵委員 (委員長)、大和委員 (副委員長)、佐々木委員、卜部委員、吉川委員、後藤委員、豊岡委員、池谷委員、小林委員、斉藤委員、野村委員、上原委員、金澤委員、朝日委員、早川委員、安部委員、宇田委員

4 議事内容

(1) 「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」(以下、「指標」と表記。)、 「東京都教員研修計画」(以下、「教員研修計画」と表記。) 及び「東京都教職課程カリキュラム」(以下、「カリキュラム」と表記。) の活用について

- ・ 学校では、「指標」を自己申告の面接等において教員の人材育成に活用している。
- ・ 「指標」は、毎年周知していくべきだと考える。教育委員会の学校訪問の際に、指導主事が「指標」の周知を図るとよい。
- ・ 「指標」の提示方法を工夫することで、教員が現状維持だけでなく、さらに上の職層を目指すようになればよい。また、指導主事や管理職を育成する側の資質・能力の向上も課題である。
- ・ 大学は基礎的な段階の教育を行うことから、教員の基礎形成期に身に付けさせたい資質・能力について考えている。大学教員は、「指標」から職層ごとの育成イメージをもつことができる。
- ・ 教育学部のない大学では、大学教員が、学校が抱える対外的な現状を知ることが難しいと考える。教員に求められる四つの力や職層についての周知を図っていく。
- ・ 東京都教職員研修センターでは、「指標」を研修に反映させることが大切であるとする。管理職候補者への周知の必要性も感じる。
- ・ 管理職選考や主任教諭選考等の節目に当たり、「指標」の周知と活用を提案する。
- ・ 大学では、教育実習の課題を振り返る際に「カリキュラム」を活用できると考える。平成 31 年度の新カリキュラム開始に向け、大学教員に周知を図っていく。

(2) 教育実習の充実に向けた大学と学校との連携の在り方について

- ・ 大学では、実習校の校長先生方の意見を踏まえ、実習委員会と実習の実施部会で大学教員の共通理解を図っているが、さらに周知徹底を図る。
- ・ 実習生は、教諭 1～3 年目 (基礎形成期) の「指標」となる力を身に付けることを目指している。実習生を指導する教員には、「指標」を確認した上で実習生の育成に当たることをお願いしたい。
- ・ 本大学では、教育実習の手引きを独自に作成し、事前指導を行っている。これから、その中に「指標」や「カリキュラム」も示していく。
- ・ 大学では、実習生には一貫した事前指導と、実習中の指導をお願いしたい。